

私たちの土地と

私たちの生活を守るために...

カガヤン・バレー地方農民連合 地方評議会メンバー
ドミエ・ヤダオ



イサベラ州サン・マリアノ町＝フィリピン北東端部



(地図)

カガヤン・バレー地方



イサベラ州₂

サン・マリアノ町

・首都マニラから北部へ404km

・面積146,950ヘクタール

＝フィリピンで最大の町

・地勢

＝森林を主とし、海拔50～60m

の範囲に広がる

・北部シエラ・マドレ自然公園
(NSMNP)の一部

＝フィリピンで最大の保護地区

＝ルソン地方で最大の

低地熱帯雨林保護地域

(フタバガキ科の高木)

町の経済

・主に農業に依存

・人口44,718人の大半の
生計手段

＝農作物に依存

・29,264ヘクタール

＝全面積の20.11%

＝農業に利用

29,264ヘクタール＝耕作に利用可

・森林

・水田

・トウモロコシ畑

⇒主要な食料生産地

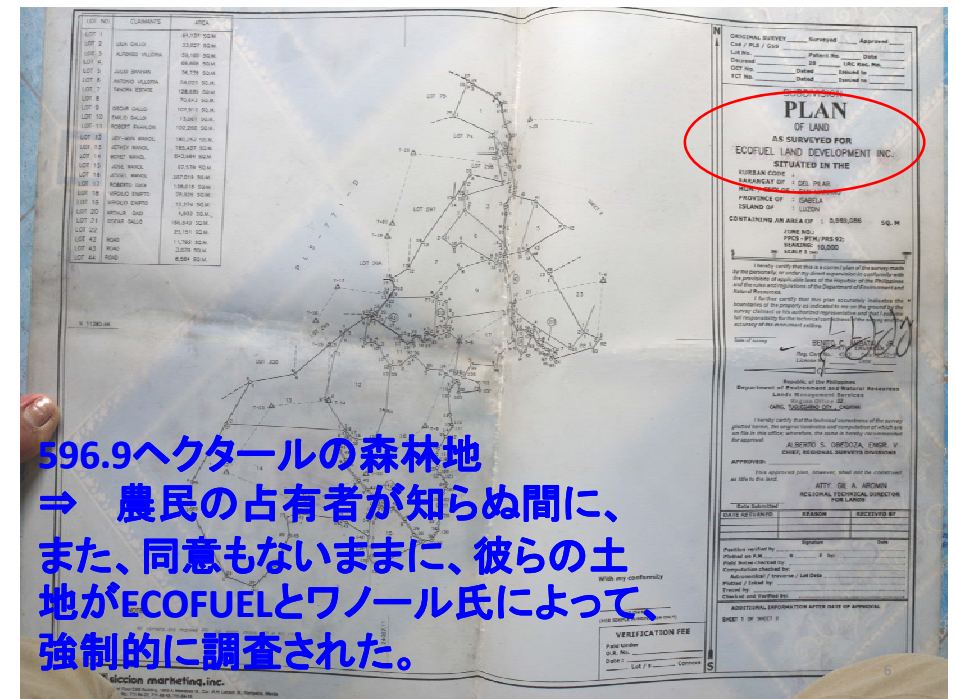
イサベラ州の食料所

農民は、60年にわたり土地を所有し、耕作し、育んできたにもかかわらず、土地に対する歴史的・法的・道徳的権利を否定されている。
先住民族は、大昔から彼らの部落が存在したと断言する。

農民の開拓者は、これらの土地を実質的に所有・管理する権利を否定されている。しかし、これらの土地は鉱山・木材・農業関連産業の会社の利用には開かれている。
偽りの森林再生プロジェクト(ISF、CBFM、SIFMA)を通じて、農民の開拓者は、土地の権利を否定されている。

- ISF = 統合的社会林業
- CBFM = 地域社会を基盤とする森林管理
- SIFMA = 社会的産業森林管理契約

5



596.9ヘクタールの森林地
⇒ 農民の占有者が知らぬ間に、
また、同意もないままに、彼らの土
地がECOFUELとワノール氏によって
強制的に調査された。

サン・マリアノ町デル・ピラー村で、農民が占有するSIFMA、および、森林地域145.7ヘクタールが、ワノール氏によって強制的に調査され、囲いこまれた後、バイオ・エタノール企業(の契約に)登録された。

サン・マリアノ町リベルタド村の農民は、彼らの土地をワノール氏によって強制的に調査された。そこに違法の牧場がつくられ、農民の作物は牛に食べられ、バナナは切り倒されてしまった。農民を追い立てた後、ワノール氏は当該農地をバイオ・エタノール事業(との契約)に登録した。

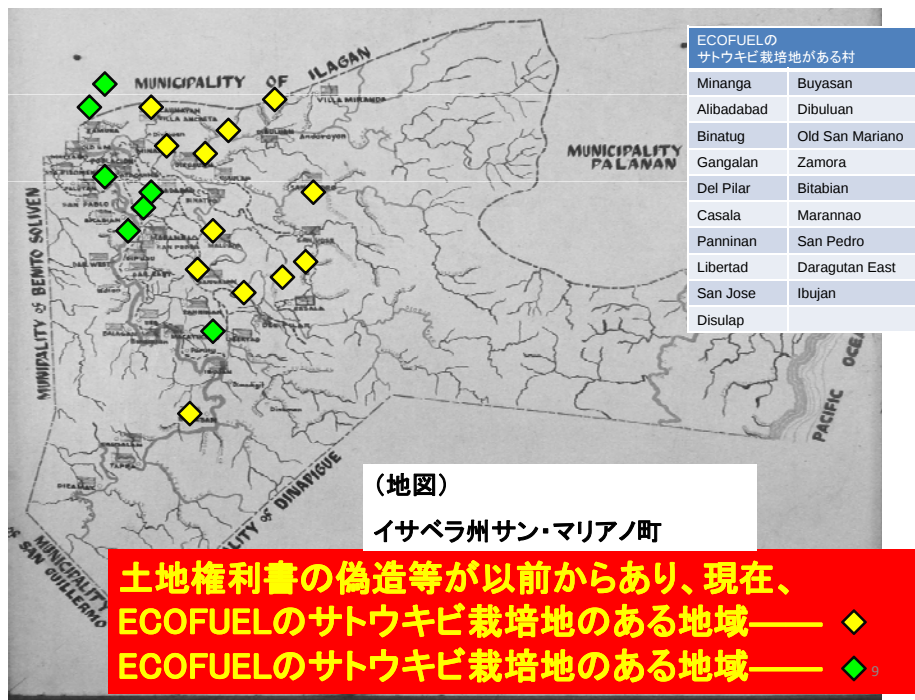
7

公有地入植譲渡証書のあるヘレミアス・ホビタ氏の土地は、異なる個人により(ECOFUELとの契約に)登録され、強制的にサトウキビが植えられた。

サン・マリアノ町アリバダバド村ーパンタ・パディット氏の家族が1970年代から切り開き、水田を作った土地は、デオドロ・ゴー氏(エドガー・ゴー町長の父親)によって不正に土地権利書を取得され、現在、サトウキビを植えられている。

デル・ピラー村の公有地入植譲渡証書のある土地でさえ、強制的に調査され、ワノール氏の違法の牧場に囲いこまれた。パドレ氏の農作物も牛に食べられ、現在、農地はバイオ・エタノール企業用のサトウキビ栽培地で覆われている。

8



サン・マリアノ町パンニナン村ーロセンド・イグナシオー家（先住民族カリंगा）が30年以上にわたり占有し、耕作してきた土地は、2004年、土地権偽造のシンジケートによりヘルミナルとルイスの名義で、不当な土地権利書が作られた。イグナシオー家は、彼らが割賦弁済しなくてはならない複数のCLOA（土地所有裁定証書）を付与された。2010年、公有地譲渡証書の原文を偽造する第2のシンジケートの一員であるグンディン・カリガルが、イグナシオー家を追い立て、バイオ・エタノール企業へ土地をリースしようとした。

農地（分配された土地）の広範囲での差し押さえ：
土地の支払いができない場合、偽造した土地権利書の名義となっている地主や、支払いのできる富裕層、あるいは、ECOFUELの土地リース契約から得た資金を使って支払いが可能になる無節操な個人らが、所有権回復をしようとする原因となる。

10

バイオ・エタノール事業が入ってきた結果、 サン・マリアノ町の状況はどうなったか

- ・ 農民の土地所有者が、農業労働者になる羽目に。食料生産地を占有していた農民が、サトウキビ農地の季節労働者に。
- ・ 残された食料生産地域が徹底的な影響を受けることに。

サトウキビの単一栽培は――

- ⇒ ネズミやヘビ、イナゴの大量発生が激増
- ⇒ 集約的な栽培農業システムは、土壌の定期的な修復を妨げる
- ⇒ 生物多様性と生態系に損害

11

農民の緊急要請：

- ・ 真の農地改革、土地を開拓した実際の耕作者や土地権を持たない農民に対する無償の（土地）分配
- ・ 貧困層の農民コミュニティが利益を享受する農業向け政府支援プログラム
- ・ 農民が収奪された農地の早急な所有権の回復
- ・ （農地改革スキームの下での）土地差し押さえの早急な停止
- ・ 不当な土地権利書の調査、有罪とされた者らの刑事訴追、不当な土地権利書の破棄
- ・ バイオエタノール事業は、イサベラ州の農地や森林地から撤退すべき。（特に、所有権に疑問の残る土地、複数の対立する所有権の主張や土地利用に関する議論のある土地）
- ・ 私たちの土地や天然資源を開発し、管理する優先権を外国企業に付与する国の方針の撤廃

12

バイオ・エタノール製造のための サトウキビ栽培地における農業労働者の状況

賃金:

- 農業労働者の賃金 = 低賃金
- 賃金の支払いの遅れ
- 賃金の未支払い
- 記録されなかった労働時間の未支払い
- 不十分な賃金の更なる低賃金化措置

13

給付・福利厚生・ 仕事の安全性:

- 提示した雇用条件の欺きSSS
 - 社会保障制度 (SSS)
 - フィルヘルス (医療保険)
- プロテクターの非提供
- 備品 (シャベル、鉄棒、レインコート等) の非提供

* 奴隷のような扱いを受けた
ミンダナオ島からの労働者

14

• 2011年7月1日の事故

- 農業労働者を乗せたトラックが、サン・マリアノ町ビナトゥグ村クラウイタン集落で、深い谷間に落ちる事故
- 一人が死亡、40人が重傷
- ECOFUELは医療費を負担
- ECOFUELは日当150ペソを負傷者が再び働けるようになるまで付与すると約束。しかし、実現しなかった。
- EDOFUELは、各々に多かれ、少なかれ10,000ペソを支払ったが、彼らのニーズを満たすのには不十分だった。

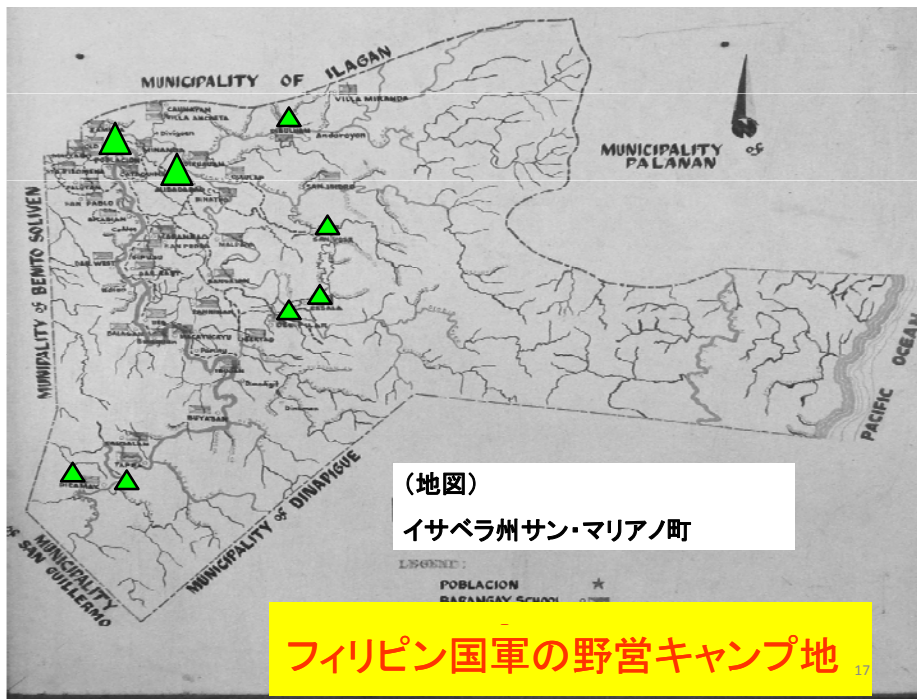
トラック事故の 犠牲者に対する 企業の約束の挫折

15

強まる抑圧と人権侵害

- ⇒ バイオ・エタノール事業に反対する住民への脅迫・嫌がらせ・監視
- ⇒ 村の選挙中における、事業に反対する候補者への軍の嫌がらせ
- ⇒ 農民リーダーの家に対する無差別発砲
- ⇒ 軍人による農民リーダー住居の侵害や令状無しでの搜索
- ⇒ 事業に反対する住民への村の自治体の社会サービス提供拒否 (低所得者証明書の発行拒否、救援物資の提供拒否、社会福祉開発省による補助金享受者リストからの除名するとの脅し)
- ⇒ 事業に反対する農民リーダーへ浴びせられる不当な非難
- ⇒ 学校や住宅地域の側に数多く設置された軍の野営キャンプ地

16



高まる反対の声

2011年12月5日
カワヤン市にあるECOFUEL本部前での抗議活動

